

米百俵の精神で、世界と交流



長岡市長（全国市長会長）
森 民夫

長岡市は、日本一の大河・信濃川が市の中央を流れ、守門岳から日本海まで八四〇kmの面積を持つ人口二八万人のまちです。戊辰戦争（一八六八年）と長岡空襲（一九四五年）という二度の戦禍に遭いながらも、その度に、「米百俵」の精神を受け継ぐ市民の力で復興を成し遂げてきました。中越大震災をはじめとした相次ぐ災害にも、「人づくりはまちづくり」の精神で「創造的復興」に取り組んでおります。

長岡市は、アメリカのフォートワース市やドイツのトリアー市など、五つの都市と姉妹都市・友好都市を結び、二十三年にわたり青少年教育を中心にスポーツ・文化など相互交流を行ってまいりました。なかでもフォートワース市との青少年交流は高く評価され、全米最優秀姉妹都市賞を二回受賞しております。近年は、ハワイ真珠湾攻撃の指揮を執った連合艦隊司令長官の山本五十六の出身地が本市ということもあり、ホノルル市と平和をテーマに市民交流も始まりました。ゆくゆくは、平和と復興のシンボルである長岡花火をホノルル市で打ち上げたいと願っております。

二〇〇一年に開設した国際交流センター「地球広場」では、「多様な人々が出会って、思いや課題を共有し、地域社会で協働すること（出会い↓共有↓協働）」を理念に、ボランティア主体の日本語支援活動や国際交流・協力活動などを通じ、顔と顔が繋がる関係づくりを進めています。こうした取組は、普段からの地域づくりや緊急時の外国籍市民支援にも活かされております。

一方、大災害を経験した本市は、災害教訓や復興事例を全国や海外の被災地へ伝えていくことも重要な使命と考えております。二〇〇八年の中国四川大地震の際には、発生直後から中国政府の幹部の方など視察団が数回見えられ、延べ約二百名が本市で震災復興のための意見交換や現地視察を行っております。また、震源地に近く被害が大きかった都江堰市の子どもたちのために、絵本を中心に約五〇〇〇冊の図書を、この四月に小学校図書館へ寄贈しました。被災地同士の交流が、文化交流にとどまらず観光やビジネスへと発展し、さらに友好な関係を築いていければと思います。

このように本市では、様々な分野で国際交流を行っておりますが、基本となるものは、「人づくりはまちづくり」という「米百俵」の精神です。今後も、外国籍市民や海外の都市との交流を通じ、お互いの良いところを認め合いながら、多文化共生社会の実現に向けて市民や関係者とともに、取り組んでまいりたいと考えております。